

# 令和 8 年度 東京都立松が谷高等学校 学校経営計画

校長 茅 野 眞 起 子

## 1 目指す学校

### (1) スクール・ミッション

外国語コースの特色を生かした国際理解教育を推進し、豊かな人間性や自主・自律の精神を育みます。多様な人々と協働し、課題を解決できる資質・能力を備え、グローバルに変化する社会に貢献できる人材を育成します。

### (2) 3つのスクール・ポリシー

#### ア グラデュエーション・ポリシー

(ア) 進路実現のための確かな学力、自ら課題を見つけて解決する能力を育てる。

(イ) 4技能に基づいた外国語の確実な習得、豊かな国際感覚と多様性を受け入れる寛容性を育てる。

(ウ) 自主自立の精神や自他ともに尊重する態度、豊かな人間性に基づく高い規範意識と道徳性を涵養する。

#### イ カリキュラム・ポリシー

(ア) 多様な文化や価値観に触れ世界で活躍できる能力や態度を育成するため、教育課程の工夫と指導方法の開発を図る。

(イ) 健全な心身の発達と規範意識や道徳性、自他を尊重する態度を育成するため、学校行事や部活動など特別活動を充実させる。

(ウ) 自ら課題を見つけて解決する能力を育成するため、探究学習や将来の職業を見据えたキャリア教育を充実させる。

#### ウ アドミッション・ポリシー

(ア) 中学校 3 年間の学習成績並びに出席状況が良好な生徒を望む。

(イ) 本校志望の意志が強く、入学後も本校の校則に従い、学習や部活動・委員会活動などにおいて継続的に努力する生徒を望む。

(ウ) 特に推薦選抜においては、学習に真面目に取り組み全ての教科に努力した生徒で、課題解決能力やコミュニケーション能力に優れ、部活動を継続して 3 年間やり遂げ、生徒会活動や学校行事に積極的に参加し貢献した生徒を望む。

## 2 中期的目標と方策

(1) (目標) 安心・安全な風土を醸成し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育成する。(方策) お互いの個性や多様性を認め合える、支持的で創造的な学級づくりに取り組み、生徒の自己実現への意欲を高める。

(2) (目標) 生徒の学力を向上させる。(方策) 新しい学力観に沿って、学びの質や読解力の向上を図り、「確かな学力」と「自ら課題を見つけ解決する力」を身に付けさせる授業改善を行う。

(3) (目標) 生徒一人ひとりの希望進路を実現する。(方策) キャリア教育の充実を図り、進路指導部を中心に進路指導體制を整備し、データに基づく組織的な進路指導を推進する。

(4) (目標) 生徒に外国語を確実に習得させる。(方策) 英語 4 技能の伸長を図り、生徒の語学学習への意欲を喚起し、英語民間試験や国際交流行事、国内外の語学研修等を充実させる。

(5) (目標) 豊かな国際感覚と多様性を受け入れる寛容性をもつ生徒を育成する。(方策) 国際理解教育や国際交流を充実させ、世界で活躍できる能力や態度を育む指導方法を開発する。

(6) (目標) 生徒の規範意識を高める。(方策) 生活指導部中心に組織的な生活指導を構築する。

(7) (目標) 部活動等を充実させ、生徒の体力を向上させる。(方策) 部活動等を通して豊かな人間性と社会性を備えた生徒を育成し、TOKYO ACTIVE PLAN for students に基づき体力向上を図る。

- (8) (目標) 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒を育成する。(方策) 自尊感情の醸成や豊かな人間性を育む人権教育を実施し、学校内外の情報共有を密にしていじめや不登校に早期に対応する。
- (9) (目標) 生徒の道徳性を涵養し、やさしく思いやりのある心を育成する。(方策) 近隣小中学校をはじめ地域諸機関と連携し、ボランティア等の社会貢献活動を通して生徒の健全育成を図る。
- (10) (目標) 都民の期待に応える学校づくりをする。(方策) 広報を充実させるとともに、情報の発信・受信機能を高め、交流機会拡大を図る。教職員の業務量管理・健康確保・ライフ・ワーク・バランスを推進し、都民から信頼される学校を目指す。

### 3 今年度の取組目標と具体的方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ア 学力向上への取り組み

- (ア) 生徒の可能性を信じ、生徒自身に「やればできる」という意識を持たせ、生徒の意欲向上と学力向上を図る。自己有用感につながる肯定的な「ことばがけ」を心掛ける。
- (イ) 担任、学年、教科担当者、部活動顧問など、担当する生徒を丁寧に観察し情報共有を徹底し、不登校・中途退学の未然防止につなげる。また、生徒を多面的に把握することで生徒の可能性を引き出し、生徒の自己肯定感を育てる。
- (ウ) 大学進学者が70%以上である現状に対し、教育課程を見直し受験指導の充実を図る。また、各教科で定めた「学力スタンダード」の達成に向けて指導内容、方法の改善を行うとともに、各教科・学年で小テストや週末課題、スタディサプリ等、生徒の家庭学習時間を増やす工夫をする。
- (エ) 生徒一人1台端末を有効活用した学習支援体制を推進するとともに、統合型校務支援システム及び定期考査採点・分析システムを有効に活用するなど教職員のデジタル技術の向上を図る。
- (オ) 探究委員会と学年を中心に「総合的な探究の時間」を計画的に実施する。自己の進路につながる学問的または職業的な課題を自ら設定して解決する力を身に付けさせ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- (カ) 全教科で言語能力向上を図り、図書館を活用した読書活動推進、大学入試や民間検定試験に有効な読解力・記述力向上、プレゼン能力育成等の授業実践を計画的・組織的に行う。
- (キ) 個に応じた学力向上を図るため、数学と英語において習熟度別学習を実施し、生徒・保護者に学習への苦手意識の解消と学力向上の効果を実感させる取組を継続する。
- (ク) 授業改善や若手教員の授業力向上を図るため、授業公開、校内研修、生徒による授業評価等の推進と充実を継続する。

##### イ 希望進路の実現への取り組み

- (ア) 進路指導部を中心に学力診断テスト等の実施後に教科分析や分析会を実施する。学年団と協力してケース会議やデータに基いた進路指導(進路面談)を充実させ、生徒の自己実現を支援する。GMARCH現役合格者40名以上、共通テスト全国平均点以上を目指す。
- (イ) グラデュエーション・ポリシーやキャリア教育プログラムに基づき進路指導部を中心に近隣の大学等とも連携しながら全学年が統一感を持った計画的・組織的な進路指導を行う。
- (ウ) 高大接続改革や大学入学共通テストなど、大学入試制度に関する情報を整理して、進路便りやTeams等を通して生徒・保護者にタイムリーに発信する。
- (エ) 生徒の進路意識を高めるため、「人間と社会」や「総合的な探究の時間」を活用し、進路ガイダンスや模試事後指導、高大連携による出張講義やキャンパス訪問等を実施する。
- (オ) 進学希望の生徒を支援するため、自習室をさらに活用させる。また長期休業中における1・2・3学年対象の講習、校内勉強合宿をより一層充実させる。
- (カ) 進路指導の充実を図るため、1・2学年で学力診断テスト、3学年で模試等を実施する。また1・2・3年生での英検全員受検と併せて全教職員での実施体制を整備する。
- (キ) 学習、生活、進路等に関する生徒の情報共有化を図るため、拡大学年会(担任一教科担

- 当連絡会)を実施する。また家庭との連携を図るため、保護者会後にクラス懇談会を実施するとともに、三者面談期間を設定する。
- (ク) 新しい大学入試制度や専門学校・就職指導の変化に対応するため、組織的な小論文指導など、進路指導部と他分掌・教科との連携を一層強化する。
- ウ 外国語の確実な習得への取り組み (Tokyo GE-NET EE)
- (ア) J E TやA L Tを活用した英語による英語授業を充実させ、I C T等を活用した協働的な学びにより、英語4技能の着実な向上を図る。1・2年合同での英語のプレゼン発表会を実施する。
- (イ) 英語4技能向上のため、図書館の英語多読図書の活用を推進する。また授業で英語版ビブリオバトル(書評合戦)を実施し、普通科の生徒に対しても授業で多読指導を行う。
- (ウ) 夏季休業中に希望者対象のフィリピン語学研修を実施し、3月には校内語学研修(Self-Discovery Challenge)を実施する。
- (エ) 2・3年生の実用英語技能検定の全員受検(5月)対策として、1次試験前でのe-learningの活用や2次試験前の面接指導を充実させ、受検前後の学習支援を組織的に推進する。
- エ 国際理解教育及び国際交流の充実(海外学校間交流推進校)
- (ア) 次世代リーダー育成道場への参加やオンライン実施を含めた交流機会を確保し、生徒が英語力を試したり異文化を体験できる場を設ける。
- (イ) 国際理解教育推進のため、外部講師による国際理解教室などを実施する。
- (ウ) 韓国の姉妹校との交流など、英語の具体的な活用場面の設定により、生徒の国際理解意識の向上や英語運用能力の育成を推進する。
- オ 生活指導充実への取り組み
- (ア) 授業規律を身に付けさせるため、年度当初にチャイム着席の励行、スマートフォンの使用等について指導基準を明確にする。また「身だしなみ一斉指導」に全校体制で取り組む。
- (イ) ①交通ルールの遵守②挨拶の励行③頭髪・身だしなみ等に関する校則の遵守④時間厳守⑤チャイム着席等の授業規律の確立、という5つの目標達成に向け指導を組織的に行う。
- (ウ) 生徒の自己管理能力の向上を図るとともに、特別指導の指導計画を策定し問題行動発生時の一連の対応を明確化する。スカート丈の指導について長期的な視点で改善していく。
- (エ) 安全指導として生徒の自転車損害賠償保険への加入を徹底する。また、自転車乗車時にはヘルメット着用を義務付け、自転車事故防止に努めるとともに、不審者被害など警察と連携しながら通学路の巡回等を行う。
- (オ) 薬物乱用防止やSNS等の正しい利用などについての講演会、生徒対象の熱中症予防教室を実施し、安全に関する注意喚起を行う。また、日頃から情報の授業やHR等でもSNSの功罪やモラルについて指導し、いじめ等につながるネット犯罪の被害・加害等の防止を図る。
- カ 部活動の充実と体力の向上への取り組み
- (ア) 多くの生徒が部活動を通して規範意識や健全な心と身体を育成できるよう部活動全体をさらに充実させる。
- (イ) 「部活動ガイドライン」に則り、活動日や回数等、部活動指導の方法を常に点検する。メリハリのある部活動を心掛け、学習時間を十分に確保し、文武両道を目指す。
- (ウ) 部活動保護者会や各部活動のお便りを通して、計画的な部活動の実施と熱中症防止対策の徹底や体罰やセクシャル・ハラスメント等の服務事故根絶に向けた取組を周知し、活動の透明化を図る。
- (エ) すべての部活動で競技力の向上だけでなく、TOKYO ACTIVE PLAN for studentsに基づき体力向上を図る。
- (オ) 地域のスポーツ振興のため、部活動の連携等を通して小中学生との交流活動を実施する。
- キ 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成への取り組み
- (ア) 生徒、保護者の悩みに対応するため、専門性のあるスクールカウンセラーに確実に繋げ

- る対応を行う。教育相談委員会を中心に、いじめや不登校の予兆の早期把握に努める。
- (イ) いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施して、学校いじめ対策委員会を核に早期対応を心がける。
  - (ウ) 自殺予防に向けSOSが発信しやすいよう悩みを受け止める温かな雰囲気づくりを行うとともに、SOSの出し方に係る命の講演会や救命救急教室、がん教育講演会を実施する。
  - (エ) 「都立学校間交流教育」事業を通じて、地域の特別支援学校の拠点校と連携し、発達障害等の生徒への通級指導などの対応を含め連携を充実させる。
  - (オ) 18歳成年制度を受け、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させる。
- ク 環境・健康・安全教育の取り組み
- (ア) 松が谷小学校等との地域連携事業、ボランティア活動を積極的に行い、生徒の社会貢献意識を涵養する。
  - (イ) 環境に関する意識を高めるために、全校体制で省エネに取り組み、生活指導部が主導してごみの分別指導の徹底等について環境委員を中心とした指導を行う。
  - (ウ) セーフティ教室及び避難訓練を全学年対象に実施し、安全教育、防災教育の充実を図る。
  - (エ) 安全に登下校できるよう、生徒に「自転車安全利用五則」を守らせるとともに、「被害に会ったら110番」と繰り返し注意喚起し、学校として警察との情報共有指導を徹底する。
- ケ 地域に根ざした学校づくりへの取り組み
- (ア) 学校運営連絡協議会を年3回実施するとともに、地域の小学校1校及び中学校3校の学校運営協議会に参加し、地域からの要望や意見を反映した学校運営の透明化を図る。
  - (イ) 学校危機管理マニュアルを基に、自然災害発生時や避難所としての対応、事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を地域と連携して構築する。
  - (ウ) 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」等に基づき、部活動指導員等の有効活用など学校を支える人員体制確保により部活動指導の負担軽減を図り、ライフ・ワーク・バランスを推進する。
  - (エ) 5日間の学校閉庁日を設定し、年次有給休暇の積極的な取得など、残業上限が月45時間超過とならないよう注意・喚起を促し、教職員の心身の健康を守る学校づくりを進める。
- コ 広報活動充実への取り組み
- (ア) アドミッション・ポリシーに基づき、本校ならではの特色を活かす募集対策の充実を図り、中学校訪問、塾訪問、学校説明会、部活動体験及び夏季休業日中の学校見学会を実施する。
  - (イ) 学習塾等が主催する外部の説明会、都立合同説明会等についてオンライン参加も含めて積極的に参加し、本校の魅力をアピールする機会を確保する。
  - (ウ) 外国語コース説明会は、英語によるプレゼンや英語多読など、本校の外国語コース教育の特色が十分に伝わる内容にし、学校説明会と一体化して全校体制で実施する。
  - (エ) 学習塾等を対象とした学校見学・説明会を実施し、本校の教育課程や進路指導の取組や学校行事・部活動の推進、外国語コースの特色など積極的にPRする。
  - (オ) ホームページの充実を図り、タイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど、本校の教育活動を分かりやすく、迅速かつ正確に発信する。
- サ 経営企画室の経営参画の推進
- (ア) 年度当初に経営参画ガイドラインを確認し、経営企画室と教員との連携を強化して学校全体としての共通理解を持ち、経営企画室の経営参画を推進して各課題の解決を図る。
  - (イ) 自律経営予算の計画的・適正な編成を図り、教員との意識の共有により費用対効果の観点から効率的な予算執行に努める。
  - (ウ) 都民から信頼される学校経営を目指し、センター執行率を前年度以上にする。また個人情報管理や会計事故の防止等について、教員と相互にチェックできる工夫を行う。
  - (エ) 生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら施設、設備の定期的点検を実施し、連絡調整や修理等速やかな対応を行う。

#### 4 重点目標と方策

##### 重点目標1 上記3(1)ア及びイ 「学力向上と希望進路実現のための取り組みの充実」

入学時からのキャリア教育等を通して、指導方法の工夫・改善を図り、生徒の学力向上と組織的な進路指導を推進し、生徒の希望進路を実現する。

##### 重点目標2 上記3(1)ウ及びエ 「外国語の確実な習得と国際理解教育の取り組みの充実」

Tokyo GE-NET EE 指定校として、特色ある英語授業や英語民間試験活用など生徒の英語4技能の着実な向上を図り、留学生との交流や国内外の語学研修等により国際理解行事をさらに充実させる。

##### 重点目標3 上記3(1)オ及びカ 「生活指導と部活動・体力向上の取り組みの充実」

授業規律を徹底させ、身だしなみや時間厳守などの基本的な生活習慣を身に付けさせることで規範意識の育成を図り、部活動を通して健全な心と身体を育成し部活動全体をさらに活発化させる。以上の3点を上記取組目標のうちの重点目標とし、各方策をもって学校経営にあたる。

#### 5 数値目標

内 容	目 標	備 考
学校評価アンケート 本校満足度	95%以上	前年度 生徒 96% 保護者 94%
自宅学習時間（授業以外で自習する） の確保	毎日1時間以上を 80%以上	前年度 31%
学校評価アンケート 授業満足度	90%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 前年度 90%
読書活動の推進 ビブリオバトル含む読書の意欲	90%以上	生徒の肯定的割合 前年度 90%
英語検定 準1級、2級、準2級取得者数	準1級 5名以上 2級 130名以上 準2級 130名以上	前年度 準1級 6名 前年度 2級 84名 前年度 準2級 118名
英語教育の充実度	90%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 前年度 94%
進路決定率	90%以上	前年度 89%
長期休業中の講座数 講習・補習の参加人数	40講座 1600名以上	前年度 41講座 1207名
国公立・難関私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	前年度 5名
GMARCH現役合格者数	40名以上	前年度 21名
中堅私大（日東駒専）現役合格者数	100名以上	前年度 68名
学校評価アンケート 部活動満足度	80%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 前年度 82%
学校見学会、説明会等 参加者数	3000名以上	見学会、説明会、入学相談会の 合計 前年度 3636名
ホームページの更新回数	450回以上	前年度 467回